



人々の生活大きく変化

新型コロナウイルスが猛威を振るっている。それに伴って、人々の生活も大きく変わっているようだ。首都圏の通勤電車の混雑は、相当に緩和されている。自宅で仕事をしたりテレワークが増えているだけでなく、ラッシュアワーの混雑を避ける時差出勤をする人が増えているからだろう。

多くの人が集まるコンサートなどが中止されるのは残念だが、テレビなどでの会議が増えて、いちいち集まらなくてもよくなるケースが増えている。移動時間が減ったことだけでもありがたい。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

今回のコロナウイルスの大流行を期待したい。災い転じて福となす、とも言われるように、不幸な出来事をそれだけで終わらせないきるかもしれない。もともと、テレワークや時差通勤を増やすことは、働き方改革の中の取り組みに入っていた。しかし、日々の生活のスタイルを変えるのは簡単ではない。会社としても、仕事

「ウイルス」問題

の仕方を変えるのに苦労している。分野などで、中国製の部品や製品に過度に依存した業界でも大きな打撃を受けている。アパレルなどでも中国製の製品が多いので、製上で、この問題が終息すれば、人々の生活パターンは元に戻るのだろうか。せつかくテレワークや時差出勤が広がったのだから、それを続けて行う企業が多く残ること

濟には常にリスクが伴う。グローバル化でそのリスクはさらに高まっている。そのリスクを消すことはできない。重要なことはリスクを分散する努力をすることだ。中国に過度に依存するのではなく、様々な国に取引を広げていく努力が必要となる。

より高い公衆衛生構築

中国リスクは、今回はウイルス問題だった。しかし、日中関係など政治的なリスクを抱えていることも事実だ。政治関係が悪くなるとうまく人や物の移動を遮断するというのは、中国が得意とする手法だ。そうしたリスクに対処するためにも、中国以外の地域との取引を広げていく努力が必要となる。ところで、今回のウイルス騒動で私たちの衛生観念も変わった。いろいろなところにアルコールの消毒液が設置してあるが、それを積極的に利用するようになった。混雑の中で咳が出て迷惑を掛けよう、マスクを着ける人も多い。人々が過度に反応してマスクや消毒液が店から消えてしまっていることは問題だが、こうした人々の防衛行動によって、風邪やインフルエンザの流行が抑えられているとも聞く。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。